

令和3年度 小金井市地域包括支援センター事業報告

	作成日	令和4年9月30日	作成者	久野 紀子
名称	小金井 にし地域包括支援センター			
設置主体	社会福祉法人 小金井市社会福祉協議会			
生活圏域	小金井市北西部（本町4丁目～5丁目、桜町2丁目、貫井）			
実施期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日			
実施日	月曜日～土曜日 9時～17時30分（ただし祝日及び年末年始は休み）			
職員配置	職種	※常勤換算	備考	
	主任介護支援専門員	1人	管理者	
	社会福祉士	3.7人		
	保健師等	1人		
	介護支援専門員	人		
	計	5.7人		
事業	事業実績		主な数値実績	常勤換算従事者数
1. 総合相談・支援業務	訪問による実態把握が制限される中、高齢者本人や家族、民生委員、地域住民、医療機関等から寄せられた多くの相談について、その緊急性を迅速に判断し、適切な制度や機関、社会資源につなげることができた。関係諸機関と緊密に連携することにより、高齢者本人を核とした地域のネットワーク構築に注力した。		相談件数：2308件	2.0人
2. 虐待防止・権利擁護（高齢者地域自立支援ネットワーク）	関係諸機関との緊密な連携、日常的な見守りを通して、高齢者や家族との間に信頼関係を構築することにより、虐待の発生防止に努力した。成年後見制度や日常生活自立支援事業の利用を推進することで、消費者被害等の発生を防止した。		対応件数：2件	0.3人
3. 包括的・継続的ケアマネジメント（介護支援専門員支援）	4包括主任ケアマネジャー協働しケアマネジャー向け研修会を開催した。居宅介護支援事業所の主任ケアマネジャーが事業所内のケアマネジャーに指導することもある為「介護支援専門員への指導・助言について学ぶ」研修や市内全ケアマネジャー向けに「認知症高齢者の意見をどこまで尊重し支援できるか」といった内容の研修も実施。これらの研修は幸い対面で行うことができ参加者同士の交流を図ることもできた。		ケアマネジャー支援：185件	0.2人
4. 介護予防把握事業	今年度も引き続き新型コロナウイルス感染予防の為、介護予防に資する資料を郵送する形をとった。令和3年11月に予定されていたお元気サミット・未来フェスの介護予防相談会も中止となりその結果、9月と1月の2回の介護予防相談会となった。第1回（9月）『自宅でできるグルグル体操』（PT講師）、第2回（1月）『バランスのとれた食事で健康に』（管理栄養士講師）計24名のサービス未利用者の方に郵送した。コロナ禍でも、自宅でできることに焦点を当て有益な情報を発信するよう努めた。		対応者数：136人	0.2人
5. 介護予防支援（予防給付）	重度化することで要介護状態へ移行しないよう、介護保険サービスや地域の社会資源を効率的に取り入れながら、要支援者の持てる能力を最大限発揮できるプラン作成に努めた。		プラン作成数：1092件	1.0人
6. 介護予防ケアマネジメント（総合事業）	多様な社会資源を活用することにより、総合事業対象者が持てる能力を最大限発揮して地域で自立的に生活できるようなプラン作成に努めた。		プラン作成数：1095件	0.7人
7. 地域介護予防活動支援事業	小金井さくら体操管理会場では、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底しながら、予定通り実施できた。完全自主会場では、各団体のリーダー、世話役の判断により一時的に休止する会場も一部あったが、概ね実施されていた。リーダーを始め参加者も感染予防に対する意識は高く、検温・消毒作業等協力的に作業いただいた。本町住宅青空ラジオ体操は順調に開催継続されており、参加者も増えつつある。		さくら体操活動支援回数：管理会場39回、完全自主会場38回	0.3人

8. 認知症総合事業	認知症の人とその家族が安心して生活できるよう地域で支える取組を行った。①認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座、認知症カフェ、認知症予防通いの場を開催した。②認知症ケアパスの活用、認知症検診者への支援等により認知症の相談、支援体制の充実を図った。③認知症関連機関との情報共有と連携に努めた。	認知症サポーター養成講座実施回数：18回	0.3人
9. 生活支援体制整備事業	応援ブックに掲載されていない様々な活動団体の把握を行った。また、本町長生会、北部長生会、松寿会、緑寿会の活動に訪問。仲間づくりや健康維持の活動を行っており居場所の選択肢を広げることができた。	第2層協議体（小地域ケア会議）開催回数：3回	0.3人
10. 医療と介護連携事業	高齢者の在宅生活を支える為には医療や介護は必須である。関係機関で連携し、より良いサービス提供ができるよう努めておりコロナ禍のためオンラインではあったが、在宅医療・介護連携推進会議に参加した。その会議の部会では、「日常療養・多職種連携研修」に参加。ここでは「日常療養の目指す姿」について話し合い「市民への医療・介護資源についての情報提供が必要」ではあるが、「現状どうなっていて何が課題か？」といった疑問も生まれ、掘り下げ検討した。また、部会では「特別養護老人ホームについて学ぼう！」というテーマで関係者向け研修開催の一助を担った。	在宅医療・介護連携推進会議：3回	0.1人
11. 地域ケア会議	個別地域ケア会議では、独居で集合住宅に住む認知症高齢者の支援について検討した。検討していく中で外灯が点く時間が遅く「高齢者なら余計に玄関ドアの色別しづらいのでは？」「高齢者でなくとも足元が見えづらく危ないのでは？」といった意見が出た。その意見は所管する機関に挙げることができた。	個別地域ケア会議：1回	0.3人